

## トビロウンカ対策について

### ■ 昨年の状況

昨年の山口県における作況指数は、73（西部地区は67）の「不良」で、この数値は、現在の形で統計を取り始めた1958年（S33）以降、過去最低となりました。

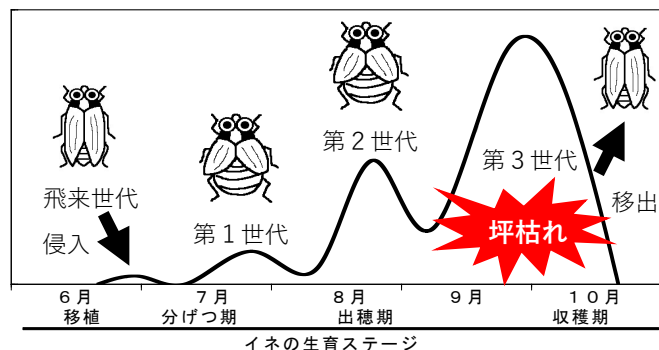
主な要因は、トビロウンカによる被害で、昨年は、中国大陸から飛来したトビロウンカが例年より早く飛来し、長引く梅雨の影響で適期に防除が出来ず、また、8月～9月中旬にかけての高温少雨も影響して増殖が早まり、被害が拡大しました。

### ■ トビロウンカについて

周年発生地はベトナム中北部から中国南部に移動し、梅雨時期に下層ジェット気流に乗って日本へ飛来する。



通常、中国大陸から飛来したトビロウンカは、日本へ侵入後、第1世代、第2世代と増殖を繰り返して短翅型の数を増やして、第3世代に大きな被害をもたらします。しかし、昨年は、第2世代による被害も一部で発生しました。



「ウンカ防除ハンドブック」参考

### ■ 対策

- ①箱施用剤は、「トリフルメゾピリム」成分の入った『フルスロツトル箱粒剤』又は『箱維新粒剤』のいずれかを使用する。
- ②施用量は、育苗箱1箱当り50gを厳守する。
- ③箱施用剤は、出来るだけ田植え2～3日前に処理し、稲体にしっかりと吸収させる。

写真	品名	10a当り使用量	使用時期	使用方法	成分名
	フルスロツトル 箱粒剤	育苗箱 1箱当り50g	播種時(覆土前) ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布	・トリフルメゾピリム(ウンカ) ・シアントラニプロール(雑虫) ・イソチアニル(いもち) ・ベンフルフェン(紋枯れ)
	箱維新 粒剤	育苗箱 1箱当り50g	移植7日前 ～移植当日	育苗箱の上から 均一に散布	・トリフルメゾピリム(ウンカ) ・クロラントラニプロール(雑虫) ・イソチアニル(いもち) ・フラメトビル(紋枯れ)



- ④早い田植えを行わない。特に中生品種【「9つの重点項目」③適正な田植え！】  
きぬむすめ 6月5日～10日 ヒノヒカリ 6月10日～20日
- ⑤出穂前後の基幹防除は必ず実施し、適期防除を行う。
- ⑥高温で増殖率が高まる為、高温で推移する時は、特にほ場内を注意深く観察する。

### ■ 情報発信の取り組みについて

J A山口県下関統括本部では、令和元年度のトビロウンカに伴う坪枯れ被害を受けて、令和2年度より、水稻インフォメーションや病害虫等の臨時情報など様々な情報をリアルタイムに発信する為、『ライン@』の運用を始めました。

スマートフォンをお持ちで、LINEをされている方は、ぜひ、ご登録ください

